

令和2年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	自立支援給付事業に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	3	1	3	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	障がいのある方々の日常生活活動を支えていくため、適切な障害福祉サービス提供を継続する。障がい者の自立支援の観点から、就労に関する障害福祉サービスの提供を強化し、多くの障がい者が社会参加できるようにする。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	障害者差別解消法を基に、障がいのある方々の日常生活活動を支えていくため、適切な障害福祉サービス提供を継続する。障がい者の自立支援の観点から、就労に関する障害福祉サービスの提供を強化し、多くの障がい者が社会参加できるようにする。
②①に基づく取組み結果	障がい者(児)へ適切なサービス提供を行い社会参加の推進を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	身体・知的・精神障がい者、難病患者及び障がい児	意図(対象をどうするのか)	安心・安全な日常生活活動を支えるため必要なサービスを提供する。
②事務事業の概要	対象者の一人ひとりに適切な自立支援給付、自立支援医療費等の給付決定と支払等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	サービス提供にあたり相談支援事業所作成のサービス利用計画に基づき支給決定を行うことが義務付けられ、個々に対し専門的な視点から適切なサービス提供に結びつけるものとなった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	障害者(児)へ適切なサービスを提供することにより、就労訓練サービス等の利用者が増加し、多くの障がい者の社会参加への推進を図った。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	障害福祉サービス等利用延人員	6,994	7,414	8,312	人 業務取得
	ii	自立支援医療費(更生医療)支払決定人員	85	116	125	人 業務取得
	iii	補装具支給件数	178	149	171	件 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)	1,634,283	1,822,075	金額(千円)	内容	2,017,879	
国支出金(千円)	815,771	907,492	1,377,663	介護給付・訓練等給付費	1,005,967	
県支出金(千円)	407,886	453,746	89,672	自立支援医療費(更生医療)	502,983	
市債その他(千円)	0	0	18,856	補装具費	0	
一般財源(千円)	410,626	460,837			508,929	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	依然利用者が増加している。これにより施設入所待機者が増加し、またヘルパー等支援者が不足し、利用者に支障が及ぶことが懸念される。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	計画相談支援を活用し、個々の生活環境を踏まえた適正なサービス利用が出来るか継続して検証していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画		令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
		計画事業費	予算額	決算額	
②計画に対する事業実績			当初		H30からの繰越
			H30⇒R1繰越		
③達成状況			補正		現年分
			流用・充当		
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円)			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	小規模作業所等の支援に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	4	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

Ⅰ 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業所の生産性の確保や地域活動支援センター事業の活動内容の周知方法について助言を行い、引き続き運営補助を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	事業所の生産性の確保や地域活動支援センター事業の活動内容の周知方法について助言を行い、引き続き運営補助を行う。
②①に基づく取組み結果	法定事業所(就労支援系施設)への移行が進んでいるが、必要な事業所であることから、事業所に対して生産活動における生産性の確保について助言等を行うとともに、運営補助を行った。		

Ⅱ 事務事業の目的・概要

①目的	対象	心身障がい者小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む。)	意図(対象をどうするのか)	地域に密着した小規模作業所(地域活動支援センターⅢ型を含む)の運営の安定化を図る。
②事務事業の概要	創作活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等に取り組む事業所に対して助成を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域活動支援センターⅢ型から法定事業所である就労支援系施設への移行が増加している。			

Ⅲ 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果		地域活動支援センターⅢ型事業所の円滑な事業運営を図るため、地域活動支援センターⅢ型を運営する事業者に対し、補助金を交付することにより、利用者の活動の場を確保した。(R2.3末現在、施設数3、利用者人数33人)。					
②成果を表す指標		指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	知的障がい者数	695	719	744	人	業務取得(手帳所持者数)
	ii	精神障がい者数	2,383	2,732	3,002	人	業務取得(手帳所持者数+自立支援所持者数)
	iii	利用者	35	28	33	人	業務取得(年度末利用者数)
③事務事業のコスト		平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算
事業費(千円)		17,374	12,151	金額(千円)		内容	16,420
	国支出金(千円)	420	397	12,151		地域活動支援センターⅢ型運営費補助金	480
	県支出金(千円)	799	618				660
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	16,155	11,136			15,280	

Ⅳ 評価・検証

①課題(目的に対する現状など)	利用者は減少傾向にあるが、障がい者の社会参加等を促進するためには必要な事業所であることから、事業を継続するための支援が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	障害福祉サービスの利用が難しい方等のニーズに応えるため、事業を検証し継続する必要がある。					

Ⅴ 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画		平成30年度事業費の状況(単位:千円)			
		計画事業費	予算額	決算額	
②計画に対する事業実績		0	当初	0	H29からの繰越
			H29⇒30繰越		
③達成状況			補正		現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
			令和元年度への繰越額(単位:千円)		

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	友和園空調設備改修事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	3	1	4	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	障がい福祉課			
施策	114社会参加に向けた障がい者(児)福祉の推進	担当課室長	星野 里香			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	令和元年度からの事業のため、無し。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	老朽化した空調設備の改修工事を行う。
②①に基づく取組み結果	令和元年度からの事業のため、無し。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	友和園利用者	意図(対象をどうするのか)	作業等の活動場所として適切な環境を整備する
②事務事業の概要	老朽化した空調設備の更新を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	設置後20年以上が経過し、故障も多いことから、障がい者の活動場所として適切な環境を整備するため。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	経費や工期等を比較検討し、これまでと同じガス方式とすることとし、設計委託を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		令和元年度	単位	算定根拠	
	i	改修工事進捗率	0	%	業務取得	
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳				令和2年度予算
事業費(千円)	756	金額(千円)	内容		7,570	
国支出金(千円)	0	756	改修工事設計委託		0	
県支出金(千円)	0				0	
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	756				7,570	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	休園することなく、効率的に工事を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	サービスを提供しながら改修工事が行えるよう、友和園、施工会社と調整する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	設計	令和元年度事業費の状況(単位:千円)							
		計画事業費	予算額		決算額				
②計画に対する事業実績	設計の完了	900	設計委託	当初	900	設計委託	H30からの繰越	0	
				H30⇒R1繰越	0				
③達成状況	完了				補正	0		現年分	756
④未完了・非着手の理由					流用・充当	0			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)		0					